

No. 9 (2006年3月9日)

非鉄金属レポート

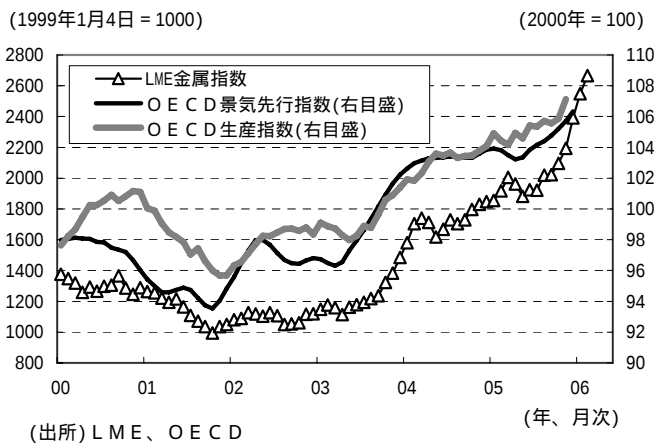
ロンドン金属取引所 (LME: London Metal Exchange) ~ 2006年2月の動向

【概況】

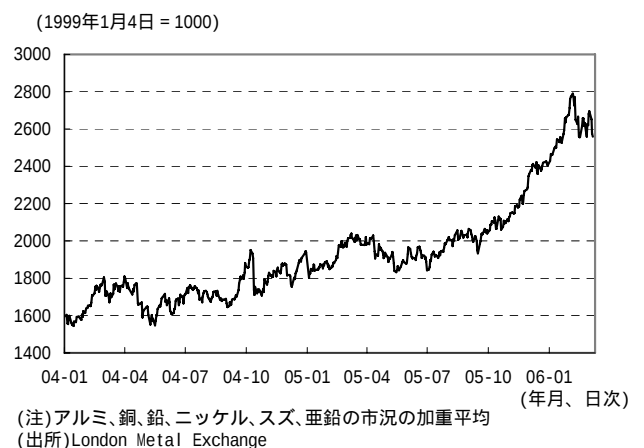
2月の非鉄金属市況は総じて頭打ちとなった。月はじめは上昇基調が続いたが、10日、15日、27日には比較的大きな下落率となった。月初に比べると、銅、亜鉛、ニッケル相場は2~6%程度下落しており、アルミニウムは10%程度と下落率が高い。非鉄市況全般の動向を表わすLME金属指数の動きをみると、昨年末の2405.0から2月6日には2789.8まで16%も上昇したが、その後は軟調に推移し、3月8日は2559.2となっている。

世界景気の回復力に対する見方が好転してきており、それが非鉄市況の上昇につながっていたが、ここにきて米国を中心とした金利の上昇により、建設投資や資本財・耐久消費財の需要に影響が出ること、投資ファンドからの資金流入が鈍ることなどが懸念されている。一部では、非鉄市況がピークをつけた可能性があるとの見方が出ている一方で、2006年の価格見通しを引上げる動きもあるなど、相場の先行きに対する見方が分かれてきている。非鉄金属の中でも、これまで供給懸念による相場が押し上げ効果の大きかった銅は、上値が重くなる可能性がある。

図表1. LME金属指数と世界景気



図表2. LME金属指数(日次データ)



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

調査部

【お問合せ先】 芥田 (E-mail: tomomichi.akuta@murc.jp)

【品目別の動向】

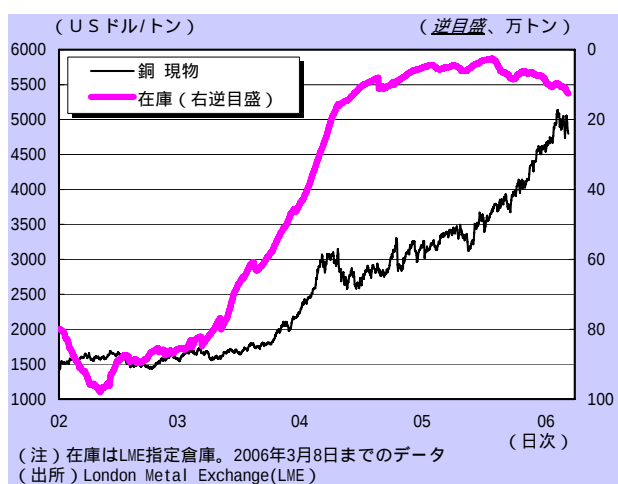
銅 ～ 頭打ちで推移

銅価格（現物、終値）は、2月6日をピークに、頭打ちで推移している。22日には、インドネシアで日量20万トンを生産する世界第2位の銅鉱山が、住民の抗議行動によって生産停止を余儀なくされたと報道された。しかし、今のところその鉱山からの出荷量には影響していないこと、昨年に落ち込んだチリの生産量が2006年は持ち直す見込みであること、精錬業者の鉱石在庫があることなどから、さほど銅相場を押し上げる材料にはならなかった。

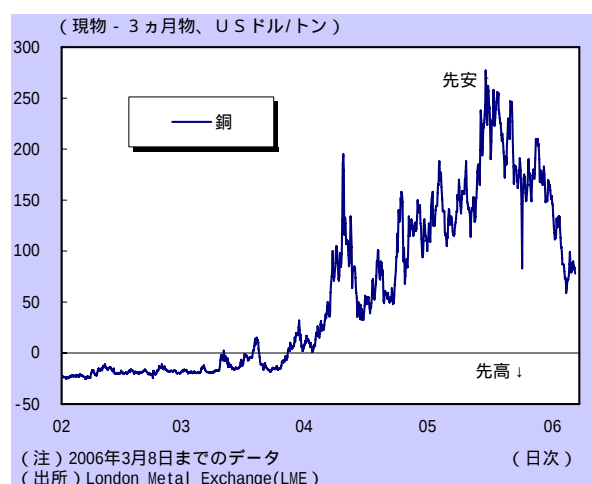
中国を中心とする需要の拡大が見込まれる一方で、銅価格の上昇を受けたプラスチックやアルミニウムへの代替や米住宅市場の減速が需要抑制要因として指摘される。銅の在庫は、7月をボトムに緩やかに増加に転じ、2004年6月頃の水準に戻ってきている。銅の需給は緩和する方向にあるとみられる。

図表3．銅

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物 - 3ヵ月物）の推移



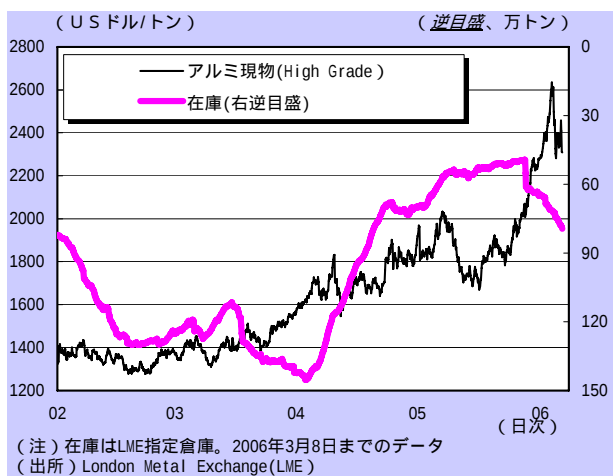
アルミニウム ～ 上昇後、下落に転じる

アルミニウム相場は、17年ぶりの高値圏にあり、2月も初旬まで上昇を続けた後、下落に転じた。精錬に要する電力や原材料となるアルミナの価格高騰によるコスト面からの上昇圧力は続いており、航空機や飲料用缶などの需要は、2006年も拡大が続くと見られているが、年初からの上昇が急であったため、足元は、他の金属に比べやや下落率が大きくなっている。

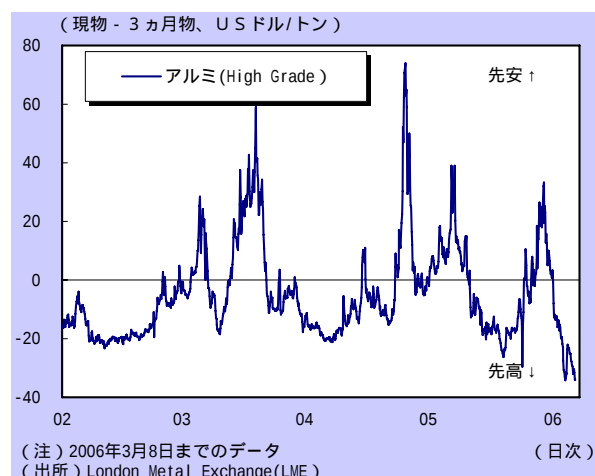
一方で、ブラジル、アイスランド、トリニダッドなど各地において能力増強が発表されているが、新規に設立される精錬所の供給が始まるのはまだ先であることや、需要の拡大が続いていることを背景に、アルミニウム相場は当面、堅調に推移しよう。

図表４．アルミニウム

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物 - 3ヵ月物）の推移



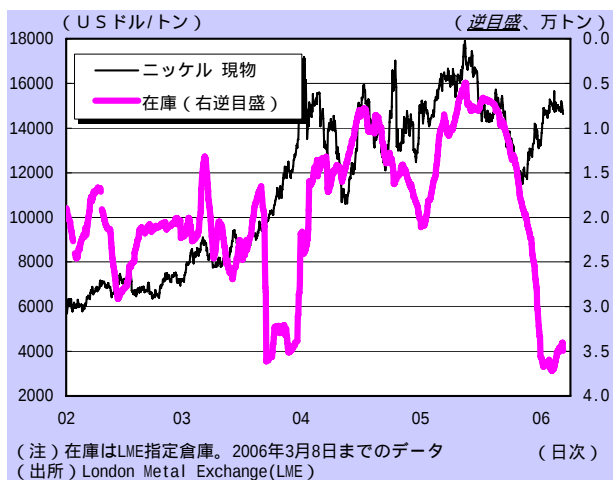
ニッケル ~ 上昇続く

ニッケル相場は、2月は小幅下落となったが、11月をボトムに反発してきている。ニッケル需要の3分の2を占めるステンレス鋼の減産が続いていたが、ここに来てステンレスメーカーからの需要が回復しつつあるようだ。また、インドネシアなど一部では、大型トラックのタイヤ不足により、出荷や生産が抑制される可能性が指摘されている。

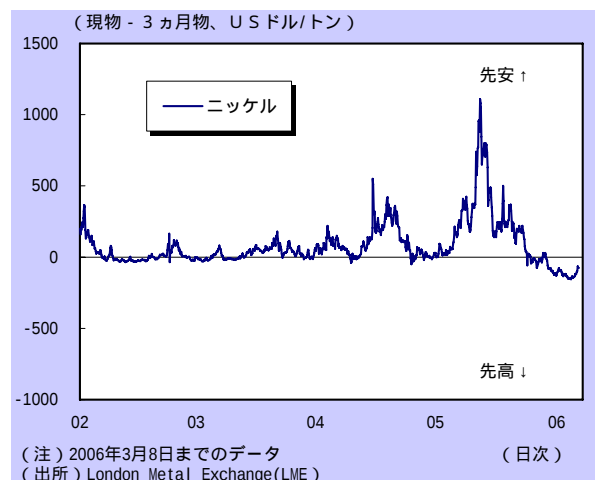
主用途であるステンレス鋼向けの需要は、中国を中心に中長期的に増加を続けると見込まれ、足元では日本や欧州の需要も回復の兆しが出てきている。増加していた在庫も減少に転じてきた。ステンレス鋼生産の回復に合わせて、相場は底堅い推移が見込まれる。

図表５．ニッケル

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物 - 3ヵ月物）の推移



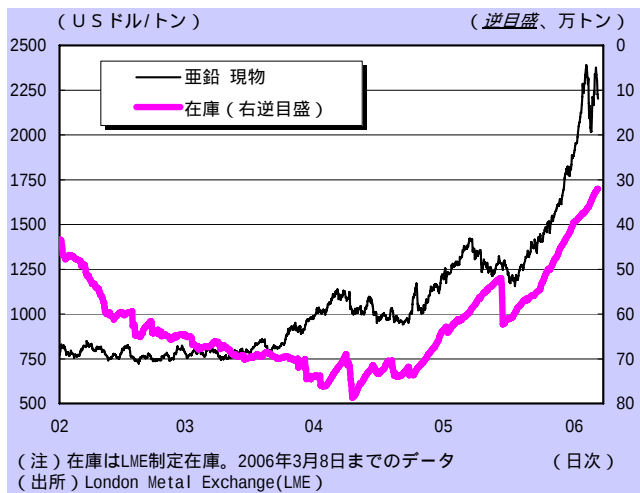
亜鉛 ～ 高値更新後、小幅下落

亜鉛相場も 2 月はじめは、中国需要の増加による需給逼迫などを材料に上昇が続いていたが、高値更新後は、小幅下落に転じている。

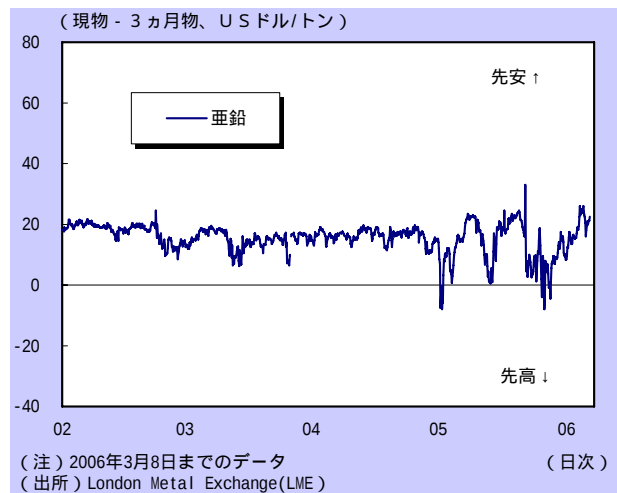
有害物質の河川流出により 12 月から操業が停止していた中国第 3 位の精錬所は、2 月 21 日より生産を再開したが、自動車や電気機器のメッキ向けの需要は増加している。一方、精錬所の新設などによる大幅な供給力の拡大は見込まれておらず、需要超過の状態が続くとみられている。実際、2005 年は中国を中心とした需要が供給を上回り、亜鉛在庫は減少傾向で足元まで推移しており、相場は底堅い推移が見込まれる。

図表 6 . 亜鉛

現物価格と L M E 指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物 - 3 ヶ月物）の推移



本レポートは情報提供を唯一の目的としており、何らかの金融商品の取引勧誘を目的としたものではありません。
また、掲載された意見・予測等は資料作成時点での判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。